

文教厚生委員会視察研修報告

○日 時 令和元年7月30日（火）～8月1日（木）

○研修先 ・新潟県 見附市

【健幸まちづくり（スマートウエルネスみつけ）について】

- ・山形県 鶴岡市【保健師による地区担当制の活動について】
- ・福島県 伊達市【保健師による地区担当制の活動について】

文教厚生委員会では、「生涯健康システムの構築について」を委員会の調査事項として、現在、調査・研究を進めている。今後、市への提言に向けて参考とするため、先進事例の視察を実施した。

○新潟県 見附市【健幸まちづくり（スマートウエルネスみつけ）について】

見附市では、ウエルネス（健幸）をこれからのまちづくり施策の中核として捉え、第5次総合計画の将来都市像に「スマートウエルネスみつけ」を掲げる。健康に関心のある層だけが参加する従来の施策から脱却し、市民誰もが参加し、生活習慣病予防や寝たきり予防を可能とするまちづくりを目指している。従来の健康施策における4本柱（食・運動・検診・生きがい）にまちづくり全体の要素を加え、まち全体の「健幸」施策へ繋げていく。

主な成果として、後期高齢者の医療費は平成22年から26年まで減少傾向にあり、全国平均との差で約20万円低い水準で推移している。また、国保の医療費においても全国よりも低い医療費で推移しており、市全体の施策として「健幸」を推進している体制は見習うべきものであった。

○山形県 鶴岡市【保健師による地区担当制の活動について】

鶴岡市では、当市と同様地区担当制を業務担当制との併用型で実施している。保健師は各庁舎に在るだけでなく、最低週1～2回（地区から要望があればそれ以上）各地区のコミュニティセンターへも勤務しており、市域全体をカバーするために充実した地区担当制が敷かれていた。

人材育成の観点では、保健師同士が支援しあう体制（プリセプターシップ）や大学や専門学校との連携による学会での研究発表など、ベテランから若手まで幅広い人材が育成できる環境が整えられていた。

実際の健康づくり施策としては、各ライフステージ別で計画し、各年代に合った事業が実施されており、文教厚生委員会が政策提言を目指している部分と重なる部分が非常に多かった。

○福島県 伊達市【保健師による地区担当制の活動について】

伊達市でも、当市と同様地区担当制を業務担当制との併用型で実施している。地区担当制との併用型では、担当業務が中心となってしまうことを危惧し、導入段階において課内業務の大幅な見直しを実施し、課全体の業務量を減らした。また事務職員を課内に配置することや、課内の業務分担を地区担当制の重さで分担を変えるなどして、課内業務の平準化がされており、保険師が一層集中して地区担当制に取り組める環境が整っていた。

事業見直しにあたっては恐らく市民からの反感もあったかと思われるが、苦渋の決断により不要な業務を切り離れたことは見習うべき点である。



各市での研修の様子